



令和7年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【光が丘地区】

令和8年3月31日現在

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	ポケットクラブ	すぎの子地域交流促進活動事業	杉の子自治会区域では、現状として次の課題があげられている。 ・ 区域における75歳以上の高齢者は160名を超える状況であり、施設入居者や自治会退会者もみられる状況となっている。 ・ 若年層の転入者が自治会加入に消極的である。 ・ 数十年前に子ども会が解散したことにより、子どもたちとの交流の場がなくなっている。 ・ 自治会の催事もコロナ後以降実施されていない。 このことから、居住者間の交流を深め、「顔と顔の繋がり」の持てる場や機会を作ることが必要である。	① 自治会非加入者も含めて、だれもが参加しやすい事業を展開し、居住者間のつながりやコミュニケーションの機会を増やすことで地域の活性化を図る。 ② 日頃からのコミュニケーションによって、住民同士の相互理解を深め、災害時などにも相互扶助が円滑に行われるようにする。 ③ 若年層転入者の地域参加のきっかけとし、自治会加入者を増やす。	次の内容の事業を企画検討、実施する。 ・ ビンポンを午前中に実施。 ・ 体験ヨガ(女性向け、男性向け)、講演、読み聞かせの開催。 ・ 夏休みに小学生を対象とした施設開放日を設ける。 ・ レクリエーション、イベントの開催(X'mas会、マジックショー) ・ 近隣地域との交流事業(マルシェなどを活用)	R7.6.13	104,000	100,000	96,000
2	地域を耕す会tagaiyas	みらいく(地域のつながりを未来(次世代)へと繋ぎ、育てる事業)	高齢化と自治会離れが同時進行する昨今、子育て世代が地域活動からますます遠ざかっている。子育て世代が地域の運営に関する話し合いや決定の場にほとんど加わらないことから、その価値観や意見、希望は、地域に反映されにくくなっている。 このままでは、地域活動の世代交代が危ぶまれることから、親子を中心に、子育て世代の関心を惹く事業を実施して地域活動に参画させ、地域活動をポジティブに捉えられるマインドを育む必要がある。	・年間を通じて子どもや親子向けの体験学習事業を実施することで、「地域活動＝面倒な仕事」といったマイナスイメージを払拭し、生活を豊かにしてくれる楽しいものだとアピールし、自治会加入促進にもつなげること。 ・参加した人たちが体験に満足と感謝を抱き、地域活動への期待や愛着を高めていくこと。 ・事業の運営に関わった人たちが、自分の得意を生かして地域に奉仕することにやりがいを感じ、ますます地域活動の輪を豊かに広げようと行動すること。	・ scienceキッチン(対象:子ども、親子) * 参加料200円(自治パス提示者は100円) ・ 青山学院大学サッカー部との連携イベント(サッカー教室等)(対象:子ども) ・ ハンドメイド クリスマスリース作成体験(対象:一般) * 参加料1,000円(自治パス提示者は800円) ・ カーラとバルーンアート・ペーパークラフトで遊ぼう * 参加料200円(自治パス提示者は100円) ※ 年間を通じて、多彩なテーマを設定して体験学習の機会を提供する。その際、テーマごとに専門の講師を招聘し、学習の質を担保する。 ※ 学習のみならず、例えば休憩時間に会場を小さなティーパーティー風のコミュニケーションの場に演出したり、フォトブースを設けてSNSに投稿しやすくするなどして、参加者同士が楽しみを共有・発信できる機会を設ける。	R7.7.17	222,000	200,000	104,000
3	光が丘地区交通安全事故防止委員会	乱横断防止及び特殊詐欺対策等の意識向上事業	令和7年度において、光が丘地区の自治会長会議やまちづくり会議等では、交通安全・防犯に関して次のことが取り上げられている。 【交通安全】 ヤオコー相模原光が丘店前の相武台相模原線(県道507号)沿いにおいては、乱横断行為が度々目撃され、重大な交通事故がいつ発生してもおかしくない状況となっている。このため、現在当該地道路両側のガードパイプ(防護柵)に啓発用の横断幕を設置しているが、古くなり汚れ等も目立ってきている。 【防犯】 近年、特殊詐欺の手口が巧妙化・複雑化し認知件数、被害金額も増加傾向にあるが、特に光が丘地区においては、令和7年7月末時点で特殊詐欺等の被害総額が5千万円を超えている。また、光が丘地区まちづくり会議では空き巣被害も複数報告されており、地区として早急に防犯意識を向上させ対策することが求められている。	古くなった乱横断防止の啓発用横断幕を処分し、新たに作成した横断幕を設置することで、効果的な啓発を図る。また、交通安全・防犯に関するチラシを作成し、横断幕の張り替えに合わせて村富線沿いで啓発活動を行うとともに、全戸配布をすることで、地区内全体の意識を向上させ、交通事故や詐欺等被害を防ぐ。	・啓発用横断幕の作成 大きさ・材質等 60cm×600cm ターポリン製 文字・数量 「あぶない！ わたらないで」、「きけん！ わたらないで」各2枚 名入れ 光が丘地区自治会連合会、相模原市中央区役所、相模原警察署、交通安全母の会 ・啓発用チラシの作成・配布 内 容 光が丘地区の交通安全・防犯 配布先 光が丘地区内で配布可能な世帯(委託で実施) ・横断幕の張り替えに伴う、啓発活動 内 容 村富線(ヤオコー前等)で作成したチラシ、啓発グッズ(カイロ、マスクのセット)の配布を行う。 ※ 周辺自治会、相模原警察署、交通安全母の会へ協力を依頼して実施 時 期 令和8年1月下旬頃を予定	R7.11.14	430,000	430,000	430,000

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4	中学生防災マップ作成 実行委員会	中学生による防災マッ プ作成事業	光が丘地区こどもまちづくり会議では、中学生にとって住みやすいまちづくりという視点で毎回、課題となっていること、話題になっていること、困っていることなどを話し合い、これまで地域のイベントへの参加、自転車免許、防災マニュアル、缶バッジの作成等を行ってきた。 今回の事業は令和5年第28回こどもまちづくり会議からスタートした(最初はマップではなく防災マニュアルだった)企画であり、年度内にマップとして形にしたいと考えている。	・防災マップは、中学生の視点で作成をし、いざというときに自分の命を守ること、家族の安否を確認すること、さらに地域においてマンパワーとして行動をとるための手助けとなることを目的としている。 ・小さくたためて常時携帯できるサイズにすることで、いざという時に見て役立てられるようにする。	・防災マップの作成 サイズ B2(728mm×515mm) (5段7折(8面)) 数 量 3,000部 内 容 表面 ①AED設置場所、②公衆電話、③災害用自販機、④公共施設、⑤避難所、⑥クールシェア実施場所など(必要に応じて書き込める余白も考慮)裏面 ①公衆電話のかけ方、②緊急通報先、③災害用伝言ダイヤル、④常に持参していると便利なもの、⑤落雷時に注意すること、⑥災害時の避難場所など 配布先 緑が丘中学校、弥栄中学校、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校 等 ※ 作成したマップは再度地域の中で検討を重ね、次年度以降、修正をして広く再配布を実施する 【事業スケジュール】 1月:防災マップの原稿作成、2月:印刷、2～3月:学校から児童生徒へ配布、自治会長等の協力者への配布	R8.1.26	547,000	547,000	520,000
							1,303,000	1,277,000	1,150,000